病診連携ニュース

ねっとわーく

Net Work

No.32

春を呼ぶといわれる奈良東大寺二月堂修二会のお水取り、そして、彼岸の入りを１週後にひかえた平成23年３月11日午後２時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード９.０という未曾有の大地震が起こり、宮城県で最大震度７を記録し、北海道から西日本にかけての広い範囲が強い揺れに見舞われ、日本全土太平洋岸に大津波警報が発令されました。

岩手、宮城、福島県の海岸には、ほどなく巨大な津波が押し寄せ、岸壁をのり越え、街になだれ込み、車を押し流し、建物を破壊し、田畑を次々に飲み込んで行く光景がテレビに映し出され、火の手が上がり、黒い煙が空に舞い上がるのも見えました。瓦礫と汚泥に埋まった町並みは想像を絶する光景で、やっとの思いで避難所に逃れた被災者の心身の疲労は察するに余りあります。夥しい死者と行方不明者に心を痛め、慰める言葉もありません。

東京電力福島第一原子力発電所では、原子炉の格納容器を収めている建屋がこわれ、放射性物質が漏れる重大な事故が発生し、放射性物質によって野菜、水、土壌への汚染が広がり、人体に被害が及ぶことが危惧されています。「フクシマ救え」と世界各国から原発事故対応の支援の申し出が相次いでおり、一刻も早い解決を望みます。

東北関東大震災において、被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。そして、被災者救助や災害対策に全力を尽くしている関係者の方々、それを支えるご家族の方々にも、心からの敬意を表します。少しでも早く日常を取り戻せるよう願っております。また被災地の１日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

各地から続々と被災地に救援の手がさしのべられています。釧路赤十字病院も日本赤十字社の指示に基づき、救護班（医師１名、病棟看護師長２名、心のケア担当師長１名、看護師１名、事務職員２名で構成）を岩手県釜石市へ派遣し、被災者の診療と看護にあたりました。また、薬剤師１名を石巻赤十字病院の応援に派遣しました。これからも指示に基づき次々と救護班を派遣します。

長く不在であった病理部に４月から立野正敏先生を迎え、臨床病理業務を再開します。また、平成15年から麻酔科部長として長きにわたり勤務された岸先生が退職され、新たに山澤　弦先生を迎えました。

新年度を迎えましたので、あらためて診療科のご案内や人の異動をお知らせいたします。併せてこれまで同様にご厚誼を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年４月１日　　病院長　二瓶　和喜

日本赤十字社
総合病院 釧路赤十字病院
地域医療連携室
〒085-8512 釧路市新栄町21番14号
電話　(0154) 22-7171(代)（内線835）
FAX　(0154) 22-7145（地域医療連携室専用）
E-mail：r.hp.renkei@kushiro.jrc.or.jp
URL：http://www.kushiro.jrc.or.jp

「手足症候群」について

皮膚科／飯田 憲治

手足症候群は抗癌剤によって起こる皮膚科に対する有害反応の代表的な皮膚症状であり、従来、フッ化ピリミジン系薬剤で起こる事が知られています。近年、開発が進んでいる新しい分子標的薬剤において高頻度に皮膚症状が出現する事が明らかになり、手足症候群は代表的な皮膚症状の一つです。

今回、分子標的薬剤で起こる手足症候群に関して、お話しさせて頂きます。

1）症状：手・足・爪を好発部位として、これらの部位に紅斑や色素沈着が出現します。高度のものでは疼痛を伴って腫脹・発赤がみられるようになり、水疱・びらんを形成することもあります。また、特に手掌や足底では角化や落屑が著名になるとともに、知覚過敏を伴って亀裂を生じることがあり、このような状態では痛みのため物がつかめなくなったり、歩行困難に陥ることもあります。

2）原因薬剤：腎細胞癌や大腸癌の治療に使われるソラフェニブヤスニチニブが有名で、投与した患者の５５～６５％の頻度で発症することが知られています。

3）治療：分子標的薬剤で起こる手足症候群では、原因薬剤を休薬すると速やかに症状、特に疼痛が軽快するという特徴があります。しかし、すべての症例に休薬する必要はなく、腫脹を伴う有痛性紅斑・皮膚潰瘍・水疱や強い痛みで日常生活に制限を受けるような場合、休薬や薬剤の中止となります。

局所療法として、保湿を目的とした尿素軟膏、ヘパリン類似物質製剤、ビタミンＡ軟膏、白色ワセリンなどの外用を行います。炎症所見が著名な場合は、ステロイド軟膏を外用し、亀裂を生じた場合は十分に厚く塗布します。また、痒みの強い場合は抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤の内服、細菌などの２次感染がある場合は抗生剤の内服も必要となります。

4）予防：スキンケア（フットケア）が重要です。荷重や機械的刺激を避け、手足を十分に保護すること、足の腫脹が高度であれば下肢を挙上すること、熱感のある時は手足をよく冷却することがポイントとなります。その他のポイントとして、（1）締め付けの強い靴下の着用を避ける（2）温度の高いシャワー・風呂を避ける（3）入浴後には皮膚に保湿クリームを塗布する（4）サイズのあった軟らかい材質の靴を履く（5）軟らかい靴の中敷きを使用して足を保護する（6）長時間の歩行をさける（7）皮膚を清潔に保ち、２次感染を予防する（8）治療前に手足の爪の手入れを行っておく（9）足の角化が硬い場合や胼胝（たこ）がある場合は治療をし、その後は保湿クリームを塗布する、などが重要です。

最後に、手足症候群では、初期症状として皮膚症状がなくとも、「物が触れたときの不快な感じ」「焼けるようなちくちく刺すような痛み」「ぴりぴりするような感じ」を訴えることがあり、このような症状がみられた場合は、主治医や皮膚科医に相談してください。

皆様、はじめまして。

麻酔科／山澤 弦

皆様、はじめまして。

３月10日から岸麻酔科部長の後任として勤務しております山澤と申します。

この度、福島県白河市から赴任いたしましたが、元々は札幌出身です。旭川医大を1984年に卒業し、札幌医大麻酔科に入局しました。その後は、札幌と旭川の近郊で過ごすことが多く、道東方面は1988年に帯広で１年を過ごしたことしかありません。

縁があって、旭川医大麻酔科の関連病院であるこの釧路赤十字病院に赴任することになりましたが、仕事はもちろんのこと、道東の生活をとても楽しみにしております。

元々がアウトドア派ですので、休日は根室、阿寒などまでドライブがてら面白そうな所を探し回り、夜はほぼ毎晩釧路の味覚を楽しみに末広当たりで徘徊しているところです。とても楽しい時間が過ごせそうな街で大変気に入りました。

仕事においては、８年もの間この手術室・麻酔科を支えてこられた岸部長のあとを引き継ぐことになり、新参者の私には力不足の面が多々あるかと思います。皆様のお力をお借りして、麻酔科、手術室運営をより一層充実して行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

後挨拶

病理部／立野 正敏

４月１日付けで、病理部に赴任いたしました立野正敏と申します。旭川医科大学で教育に携わっており、病理診断にはブランクがありますが宜しくお願いいたします。私は卒業後すぐに病理学講座の大学院に入ったものの、同期が５名いたため市立札幌病院へ外科病理の研修に出され、２４年間（途中、２年間米国へ留学させていただきました）同じ部署にいました。当時の市立札幌病院には白井先生（順天堂病理学）、吉木先生（北大第一病理）、小池先生（北大第二内科）、富野先生（順天堂腎臓内科）、小林先生（北大保健科学）、深津先生（埼玉大精神科）、故石倉先生（千葉大病理学）といった後の教授陣がいて刺激を受けました。自己免疫疾患、ＨＴＬＶ－１、腎病理の診断を蛍光抗体法や電顕を駆使して行っていましたが居心地の良い所でした。

当院では５年ほど前に鈴木先生がお辞めになった後、病理医の不在が続いて不便であったようですが、その解決に努めていきたいと考えています。「病理学」は身近でないスタッフの方々も多いと思います。また、生検診断や手術材料の診断が主体と考えられがちです。それ以上に病理医が常駐する利便性を考えて頂ければ幸いです。術中迅速診断、病理解剖、臨床病理カンファランス（ＣＰＣ）などで、病気の本体解明の一助となれるよう頑張りたいと思います。

最近見つけたのですが沖中重雄教授（最終講義で誤診率が１３．４％であったと報告した）の一言。「臨床医は剖検で育つ」だそうです。

手術室紹介

手術室／大本 輝子

私は手術室師長の大本です。当院手術室の紹介をさせていただきます。

当院は外科・整形外科・産婦人科・眼科・泌尿器科・皮膚科・歯科口腔外科の７手術科を有し、年々手術件数が増え、平成２２年度は５，１４５件の手術を行いました。

平成１９年周産期母子センター開設に伴い、『緊急帝王切開術が２４時間実施できる手術室』を目指し緊急帝王切開術専用室として一つの手術室を改修しました。

このように設備を整え、加えて、この専用手術室を有効に使うために、麻酔科医師、婦人科医師、産科病棟と共同で『緊急帝王切開術シミュレーション』を年に数回実施しています。１分１秒を争う超緊急手術を安全に行うため、スタッフみんなで訓練をしています。

二つ目に、当院は９手術室を所有しておりますが、そのうち２室が眼科病棟にあります。

この手術室は、４床室２部屋と処置室を改修して、２手術室を“手術室分室”として設置しました。

先にも申しましたが、当院は周産期センターですから、もし、大地震で本館手術室が倒壊しても、緊急帝王切開術に対応する機能を持たねばならず、この手術室の１室が全身麻酔緊急手術に対応可能な手術室としても設置されています。（未だ使用する機会がないことが幸いです）

ここでは、病棟スタッフと共同で局麻手術を行っていますが、病棟スタッフの協力のもと患者移送が短時間で行える事で準備や待ち時間が短縮され、年間２，０００件を超える眼科局麻手術がとてもスムーズに行われています。

三つ目に、鏡視下手術の急増です。外科・産婦人科手術の約４割が鏡視下手術となっています。手術点数の高い手術ですが、手術室を管理する私にとっては頭の痛いことが山積みです。

“手術器械が高額であり、繊細なものが多く壊れやすい”“医療材料費が嵩む”そして、何より、開腹手術と比較した場合、手術時間がかかることです。しかしながら、確かに手術侵襲が少ない手術であり、患者が鏡視下手術を希望するケースが多く、また、その卓越した技術が提供できる医師たちが揃っている当院ですから、諸問題を工面することが私の責務かもしれませんね。

最後になりますが、当院手術室は、手術の大小に関わらず患者さんが安心して手術を受けていただける手術室を目指し、“知識と技術と笑顔を武器に！”日夜頑張っています。

がん薬物療法認定薬剤師の役割、活動内容について

薬剤部／元木 孝

昨年、がん薬物療法認定薬剤師の資格を取得した元木と申します。今回、このような機会を与えていただきましたので、薬剤師の認定・専門制度について、がん薬物療法認定薬剤師の役割、当院での活動内容についてご紹介させていただきたいと思います。

日本での認定・専門薬剤師制度は、日本病院薬剤師会が2006年から専門薬剤師の認定を開始し、現在までに、①がん、②感染制御、③精神科、④妊婦・授乳婦、⑤HIV感染の５領域で認定・専門薬剤師が誕生し、他分野でも多くの学会認定・専門薬剤師制度が発足しています。各領域の認定・専門薬剤師の資格を取得するためにはいくつかの条件がありますが、「がん」領域については、５年以上の薬剤師歴、日本病院薬剤師会生涯研修履修などの認定薬剤師の取得、認定研修施設での３ヶ月以上の研修、がん領域学会・講習会での所定単位数の履修、がん患者さんへの薬剤管理指導50症例以上の実績、認定・専門試験の合格、専門では学会発表・論文などが必須となっています。私は2009年５月から８月まで国立病院機構北海道がんセンターで研修を行い、昨年認定試験に合格、申請によりがん薬物療法認定薬剤師の資格を取得することができました。全国にはがん薬物療法認定薬剤師は835名、専門薬剤師は222名で、釧路市内にはがん薬物療法認定薬剤師が私を含め３名います。

がん薬物療法認定薬剤師の役割としては、がん化学療法の急速な発展とその多様化により複雑化したプロトコルや抗がん剤副作用の管理などを薬剤師の立場からサポートし、安全で確実ながん化学療法を実施するため標準治療やがん診療ガイドラインの理解、レジメン設計・支持療法・緩和ケアへの参画など多岐にわたり、その役割を果たすためには多くの知識と経験が必要であるとされています。医師を対象とした調査でも、レジメン設計に関する支援、副作用の予測・予防および対処、ＴＤＭによる有効性・副作用の評価、患者さんのニーズに沿ったＤＩ提供、がん化学療法のほか疼痛緩和医療での専門的知識が薬剤師に求められる専門業務としてあげられています。

当院での私の活動は、緩和ケア委員会、化学療法委員会に参加し、病院内における緩和領域、抗がん剤治療の適正使用への関わりをもち、がん患者さんが入院している各病棟で活動しています。また、患者さんが安心できるがん医療を提供するためには他職種との連携が重要であると考え、がん領域での認定看護師（がん化学療法認定看護師・緩和ケア認定看護師）の方々や病棟看護師と協力しあいながら、カンファレンスなどで患者さんの情報を共有し、チームの一員として患者さんに関わっています。

まだ認定を取得してからも日も浅く、勉強不足・経験不足な所もあると思いますが、がん医療へ携わる者として、日々研鑽していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

病棟保育士について

病棟保育士／横井 礼子

病棟保育士は託児所と兼務で現在２名の保育士がおり、期間ごとに交代で小児科病棟に勤務しています。病棟保育士の主な業務内容は、集団保育、個別保育・訪問、行事の準備・開催、玩具・絵本の消毒、病室訪問、装飾製作・貼り替え等です。

集団保育は急性期と慢性期の患児が使う日を別にして週１回プレイルームにて１時間行なっており、子ども達の要望に合わせながら玩具や製作などで遊び、母親からの育児相談や母親同士のコミュニケーションの場にもなっています。個別保育・訪問は、症状により病室から出られない児のストレス軽減や治療に対して前向きに取り組んでいけるように働きかける目的で、病室にて１時間行なっています。保育士と１対１で会話や遊びをゆったりとして過ごすことが、子ども達にとって楽しみな時間となりその時間を心待ちにしてくれているようです。また、玩具・絵本の貸し出しも行なっており、修理や補充などの管理、返却されたものは感染予防のため消毒を行なうのも保育士の大きな仕事の一つです。

入院期間が短いため全員と関わる時間を毎日とることは難しく、出来る限り入院中に一度は関われるようにしていくため、また朝の採血後は痛いことを頑張ったことを認めて励まし、恐怖を軽減させる目的も兼ねて、病室訪問を行なっています。採血の時について質問をしながら、頑張って最後まで採血できたことを大いに褒めると嬉しそうな笑顔を見せてくれます。病室訪問によって、より多くの子ども達と関わる機会が増えてコミュニケーションが取りやすくなり、また病棟保育士の認知度を広げる役割も果たしていると思います。

そして、病棟保育士の大きな仕事としてもうひとつ、行事の開催があります。入院中であっても、四季折々を感じることができるようにプレイルームをはじめ、病棟内に季節に合った装飾をしていき、また医師・看護師と協力して毎月行事を行なっています。人気の行事としてあげられるのは、クリスマス会と節分です。クリスマス会は、入院中であってもクリスマスを楽しんでもらえるように、医師が扮したサンタクロースが各病室を回ってクリスマスブーツをプレゼントしています。節分も医師が鬼に変装して各病室を回り、新聞紙を丸めたものを豆に見立てて豆まきを行ないます。保護者も、いつもと違う医師の変装姿に喜び、豆まきに参加してくれたりと親子で楽しめる行事となっています。

このように病棟保育士は入院生活においても子どもらしい生活ができるように日々サポートしています。今後も治療や病気に対する恐怖や不安を理解して親子の心身の安定を図り、治療が円滑に行えるように支援していきたいと思います。

糖尿病教室リターンズ
～話題の新薬 インクレチンについて教えます～

薬剤部／栗田 征幸 with 釧路赤十字病院糖尿病研究会

糖尿病教室で話していることでお薬について紹介させていただきますので、最後までお読み頂ければ幸いです。

今回お話するのは、最近できた新しい糖尿病の薬でインクレチンに関連した薬のことです。

この薬には飲み薬と注射薬があります。

まず飲み薬についてのお話をさせてもらいますが、DPP4阻害薬と呼ばれています。そんな名前出されても難しくてわからないよ、という方もいるかもしれませんが、直訳するとDPP4という酵素の邪魔をする薬、ということです。

それじゃあDPP4って何？となると思いますのでお話していきたいと思います。DPP4という酵素は体にあるインクレチンというホルモンを分解する働きをもった酵素です。

それじゃあインクレチンって何？と言いますと、血糖値をコントロールするには血糖値を下げる働きを持つインスリンと血糖値を上げる働きを持つグルカゴンというホルモンがあります。そしてインクレチンというホルモンはこの２つのインスリンとグルカゴンをコントロールするのです。

インクレチンは小腸から分泌され、血糖値が高い時は血糖値を下げるインスリンの分泌を促進して、血糖値が低い時は、インスリンが出すぎないようにして、さらに血糖値を上げる働きを持つグルカゴンの分泌を促します。

こんないいものが体の中にあるんだから糖尿病の治療に利用しない手はないと開発されたのが、このDPP4阻害薬です。

DPP4という酵素は、この大事なインクレチンを分解してしまうので、お薬でこのDPP4の働きを邪魔してインクレチンの効果を持続させたらいいんじゃないか、と考えられて作られました。

現在あるインクレチンに関係した薬は、他にもあります。先ほど話した注射薬についてのお話になります。

注射薬は人工的にインクレチンに似たものを作り出して、注射するお薬です。

飲み薬と注射薬の違いは、飲み薬は体の中のインクレチンが分解されるのを邪魔する薬で、注射薬はインクレチンみたいなものを直接体に注射するものだと思ってもらえればいいと思います。

これらの薬の特徴としては、低血糖になる心配が少ないという点があります。

ただ注意してもらいたいのが、他の糖尿病の薬と一緒に飲んでいる場合などは低血糖の危険があるので注意してください。

今お話してきたインクレチンの新薬は、とても優れた効果がある薬ですが、糖尿病の患者さんなら誰でも使えるというわけではなく、他の糖尿病の薬の方が治療にあっているという場合もありますので、それを忘れないでください。

今話題の薬インクレチンに関連したお話をしてきましたが、糖尿病には良いお薬がでたとしても補助的な役割です。普段の食事と運動をしっかりして頂けると、薬の効果はもっと高くなってくれますよ。

以上薬剤師から糖尿病教室のお話を紹介させていただきました。また機会があればお薬のことについてお話させていただきたいと思います。

平成22年度ボランティアクラブ総会

平成２２年度ボランティアクラブ総会を３月２日開催しました。

永田会長の挨拶に始まり、２２年度収支報告、２３年度予算案、またボランティア活動については、総合案内、衛生材料作成、除草、図書活動の他、本年度は会話ボランティア、花壇製作が新規事業として承認されました。

続いて１年間の功績に感謝し、ご苦労いただいたお礼をこめて懇親会となりました。二瓶院長の挨拶、山口副院長の乾杯に始まり和やかなムードの中、楽しく賑やかに行われ、最後は本年度も会長をお引き受けいただいた永田会長の乾杯で閉会となりました。

現在、ボランティアクラブ会員は２８名在籍しています。ボランティア活動を通して地域との連携を深め、病院への理解、院内の活性化など、職員と患者さんとのかけ橋的役割を担っています。また患者さんに優しさと潤いをもたらし、患者さんの健康づくりに貢献することを主旨とし、ボランティア活動に熱意のある方で組織しているものです。

尚、ボランティアクラブ会員については、随時募集を行っております。ご希望の方は、地域医療連携課までご連絡ください。

赤十字健康生活支援員養成講習

赤十字健康生活支援員養成講習を２月５日・６日の２日間開催し、２６名の方が受講されました。この講習は、高齢期における健康維持増進の知識、家庭内の看護、自立に向けての高齢者支援及び介護技術の習得を目的としているものです。受講生の年齢層は、５０～６０代が多く、親や配偶者など現状介護をしている方、また近い将来介護が必要となる方など、熱心に受講されていました。

また当院では、他に一般市民に広く普及する事を目的として、赤十字救急法基礎講習・救急員養成講習・幼児安全法支援員養成講習等を実施しています。開催時は、新聞・釧路市広報に掲載していますので、多くの方の受講をお待ちしております。

東北関東大震災の被災地へ医療救護班を派遣

日本赤十字社北海道支部より東北関東大震災の被災地へ当院医療救護班の派遣要請があり、その出発式を３月１８日午後５時３０分より行いました。当日は、ＮＨＫ・新聞社の報道機関も訪れ、医療救護班班長、藪谷第二内科副部長より力強く出発報告があり、二瓶院長からは、体に気をつけて任務を果たし、無事に帰ってくるよう激励の言葉がありました。

当救護班は、３月２０日午前６時当院を出発、３月２１日～２４日まで岩手県旧釜石市立第一中学校にて、医療救護・こころのケア等の救護活動を行いました。３月２６日に帰院し、３月２８日の帰着報告会では、ＮＨＫ・各新聞社も訪れ、現地での救護所や避難所の様子をスライドを交え、活動状況報告を行いました。

出発式

帰着報告会

被災地での医療救護活動を終えて

総務課／生田 洋樹

2011年３月11日に発生した東北関東大震災の被災者救援のため、同20日から26日まで岩手県釜石市に救護班（医師１名、看護師３名、事務２名の計６名）と心のケア担当（看護師１名）を派遣し、医療活動を行いました。

避難所の旧釜石市立第一中学校体育館は、電気や水など、ほとんどのライフラインが遮断され、架設のトイレがやっと取り付けられたような状態で、約200人もの行き場をなくした被災者が寄り添うように生活しており、校庭に設営した救護所テントには診察や薬の処方を希望する被災者が絶え間なく訪れました。

当院では、引き続き被災者救援のため、同29日から４月４日まで薬剤師１名、４月８日から15日まで医師1名を宮城県の石巻赤十字病院に派遣、また、４月10日から15日まで第２班、５月１日から５月６日まで第３班の救護班と心のケア担当を岩手県陸前高田市に派遣する予定です。

現地災害対策本部にて出発報告

被災者のこころのケアの様子

救護所での医療活動

避難所の様子